

# カンボジア 工場労働者のための子宮頸がんを入口とした 女性のヘルスケア向上プロジェクト

Newsletter from SCGO-JSOG Project on Women's Health and Cervical Cancer

No.5 March 2016

## 工場の女性労働者を対象とした子宮頸がんに関する意識調査

カンボジアのプノンペン国際空港から西に 8 キロ、プノンペンの市内中心部から 18 キロの位置にプノンペン経済特区 (PPSEZ) があります。多くのカンボジア国外の企業が、このプノンペン経済特区を拠点としてカンボジアでの事業を行っております。

当プロジェクトではプノンペン経済特区にある工場で働く女性を対象に健康教育を通して、カンボジアの女性のがん死亡で最も多い子宮頸がんの啓蒙を行い、子宮頸がん検診を実施することになっています。

子宮頸がんは、妊娠出産が可能な年齢の女性が罹患し、命を落とす可能性のあるがんであり、カンボジアにおける女性のがん死亡の中で一番多いとされます。そのため、主に地方からの若い女性が働いている工場で、女性労働者を対象とした子宮頸がんに関する意識調査を行い、現状を把握した上で、子宮頸がんを入口とした女性の健康に関する啓発活動に繋げていくことは、本プロジェクトの二本柱の一つとして位置づけています。

工場でのプロジェクトの最初の活動として、工場で働く健康教育をどのように行うか考えていくために、まず工場で働く女性達の健康に対する意識調査を行うことになりました。



プノンペン経済特区 (PPSEZ) 正面

PPSEZ 内にある  
住友電装株式会社



## 意識調査の予備調査

本調査に先立ち、2月17日に、調査実施先の住友電装株式会社 (Sumi (Cambodia) Wiring System Co., Ltd.) で、意識調査の予備調査が行われました。本調査と全く同じ方法で、国立公衆衛生院の研究者が指揮をとり、インタビュアーを監督する3人が会場全体を見渡しながらか、12人のインタビュアーの調査の進捗状況を、時にサポートやアドバイスを出しながら、確認していました。工場側担当者は、工場労働者がスムーズに調査が受けられるように、アレンジおよびタイムマネージメントをして下さいました。

予備調査の前には、調査を委託したカンボジア国立公衆衛生院の研究者が、インタビュアーを担当する12名とインタビューを監督する3名に研修を行いました。インタビューの項目に関しては、国立公衆衛生院の調査者が作成した質問項目に、カンボジア人日本人のプロジェクトメンバーがアイデアを出し、また調査実施先の総務スタッフ、保健室スタッフの意見を伺い、最終質問項目としました。



写真(左)  
インタビュアーの調査の様子をインタビュアーの監督者が確認



写真(中)  
全体を見渡しながらか、進捗状況やタイムマネージメントを行っている工場側担当者



写真(右)  
調査前の研修風景

## 工場での意識調査(本調査)

3月10日～3月16日の間、6回に分け、女性工場労働者の子宮頸がんに関する意識調査(本調査)を行いました。

プロジェクトチームは、おそろいの白いポロシャツで現れ、工場の調査会場に到着するやいなや、すぐに調査が開始できるように準備していました。予定時間通りに調査は開始し、工場側担当者的確なタイムマネージメントの中、予備調査同様、順調に調査は進んでいきました。インタビューアの監督者は経験の浅いインタビューアをフォローしつつ、全体の状況を把握しながら、調査終了直後に記入漏れがないか、など調査用紙を確認していました。

期間中450人弱の女性労働者にインタビューを行いました。

インタビューを受けた女性労働者も、プレテストの時は、どのような質問を受けるのだろうか?と顔の表情が硬い人もいましたが、本調査では、皆さん終始リラックスモードで、インタビューアもインタビューを受ける側も笑顔が見えていました。

今後、実施された調査の結果を踏まえ、工場で行う健康教育の方向性が議論される予定です。

これらの活動を通し、プロジェクト目標である、「対象となる工場の女性労働者たちが、検診を受ける意義を理解し、子宮頸がん検診・早期治療を受けるようになる。」へ近づけるよう活動を進めていきます。



調査の全体風景



写真(上・中)意識調査実施風景  
写真(下) チームリーダーが調査後  
すぐに質問表の確認をしている風景

### ～本調査の工場側責任者 後藤卓史さんのコメント～

「このインタビューを契機に、従業員がヘルスケアの関心を深めるのではと思います。

また、アドミスタッフとメディカルスタッフ(看護師)にとっては、学会、医師、専門家と直に接することができ、良い経験になったと考えます。

最後に、カンボジアの医師、専門家の礼儀正しく、フレンドリーな対応が印象的で良かったと感じました。」

と、本調査終了後に、後藤様から大変嬉しいコメントを頂きました。



工場での意識調査終了後の集合写真(後藤卓史様提供)

### プロジェクトを取り巻く動き

- 3/1 : 西野りり子医師帰任
- 3/1- 3/5 : 藤田則子医師カンボジア派遣
- 3/4 : 第三回プロジェクト運営会議
- 3/10-3/16: 工場意識調査(6回)
- 3/23-4/6 : 松本安代医師カンボジア派遣
- 3/29 : 第4回SCGO理事会
- 3/31 : カンボジア実践部隊医師とアドバイザーチーム  
第八回合同会議

### ～ミニミニコラム～

カンボジア産婦人科学会(SCGO)事務局では、1月に学会のHPを立ち上げました([www.scgo-kh.com](http://www.scgo-kh.com))。そのHPの内容を充実させるべく検討をしているところですが、現在、同時進行で、SCGOの会員への情報共有強化のため、SCGOのニューズレターも作成中です。最初は6ヶ月に1回ぐらいのペースで発表できるようにスタッフが頑張っています。